

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492300017	事業の開始年月日	2011年4月12日	
		指定年月日		
法人名	株式会社岩沼インテリアサービス			
事業所名	認知症高齢者グループホームひまわりの郷 ユニット名：A棟			
所在地	(〒 981-2102) 宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山字直洲131-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年1月17日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあります通り「利用者本位」「地域密着」「異体同心」を基に利用者さんや家族の声を出来るだけ聞くようにしています。また、地域である奉仕作業や避難訓練などにも参加し、それにより、地域の皆さんと緊密な関係を築き、気軽に声を掛けて頂けるホーム造りを心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月16日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

事業所理念：「異体同心」「地域密着」「利用者本位」
理念をより具体的に実現するため、ユニットごとの目標を定めている。
A棟：心と体の健康で笑顔と真心の介護
B棟：敬う心で明るい笑顔、優しい介護

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

運営する母体法人は、「株式会社岩沼インテリアサービス」である。当初、地域貢献として1ユニットのグループホームを開所し、現在は、独立した建物の中2ユニットで運営している。ホームは国道113号線に近い静かな住宅街と田園地帯の中にあり、各ユニットは敷地内で向かい合わせに建てられている。リビングや全居室にはウッドデッキが設けられ、また、建物内部には木材が多く使われ、古民家造りのように玄関やリビングの高い天井には、太い木の梁がある。天井にはシーリングファンが備え付けられており、室内の温度が調整しやすい。

【事業所の優れている点・工夫点】

理念のもとに職員は運営法人との連携を図りながら、入居者の日々の変化をこまめにチェックし介護に活かすことで、「利用者本位」の理念に沿ったケアになっているかなど、意識して取り組んでいる。行政の福祉課職員や関連部署と連携・協力体制を構築し、町内会主催の総合防災訓練、缶拾いや除草作業に参加する等、地域交流や地域貢献に取り組んでいる。介護福祉士会から講師を招き研修を実施する等、職員が専門的知識を正しく習得できるようにしている。また、入浴リフトの導入や感染症予防対策用に専用のゴミ箱、大型テレビの購入、職員の希望休やシフト調整を行う等、職員からの意見・要望を積極的に受け入れて、サービスの質の向上に努めている。季節を感じられるよう外出の機会を設け、旬の食材を取り入れた献立による行事食の提供など、入居者が楽しく過ごせる工夫を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	認知症高齢者グループホームひまわりの郷
ユニット名	A棟

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホームひまわりの郷）「ユニット名:A棟」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」という3つの理念と、A棟「心と体の健康で笑顔と真心の介護」B棟「敬う心で明るい笑顔、優しい介護」という各ユニットごとの目標を決めて実施している。	ホームの理念は額に入れ、確認しやすいようリビングに掲示している。各ユニットごとに職員の介護姿勢を示す目標が作られ、入居者との関わりに活かしている。年1回、事業計画と共に全職員で確認し検討する機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「班」に入れていただいております。回覧板を通して、地域の情報を受けています。また、奉仕作業や避難訓練にも参加し交流に努めています。	町内会に加入し、町内会主催の総合防災訓練、缶拾いや除草作業に職員とともに入居者も参加している。回覧板が届いたときは入居者も確認したり、地域との繋がりが続けられるよう支援している。また、近隣住民から野菜の差し入れなどもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護福祉士会より先生をお招きし、講義を受け、学んだことや実践で積み上げて来たことなど問い合わせや要請があれば活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行っており、役場や委員の方に運営状況等について説明し、質問等にも丁寧に答えている。また、役場や地域の情報も頂いている。	運営推進会議は家族代表、区長、民生委員、地域包括職員、職員がメンバーとなり、年6回開催している。新型コロナウイルス等感染症予防対策が必要な時には、書面で資料を配布している。入居者状況や改善点など、ホームの運営情報報告を行い、メンバーからは地域の情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場包括支援班に参加していただいております。また、介護保険班より、何か情報があった時、連絡をいただいております。こちらからも何かあった時情報を提供している。	行政職員が外部評価に同席している。制度の利用や補助金等の相談、改善報告書の提出を行う等、行政の福祉課と密に連絡がとれている。また、必要時には、福祉課以外にも連携する等、協力体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を作成しており、職員全員に配布し、会議の時に読合せをし周知徹底を図っている。また3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。また、2月のミーティング時に介護福祉士会より講師の先生をお招きし「虐待防止、身体拘束の廃止」についての講義を受ける予定をしている。	「身体拘束その他の行動制限防止に係る指針」を昨年6月に策定した。3ヶ月に1回、「身体拘束適正化委員会」を開催している。メンバーは、施設長、非常勤の看護師、ケアマネジャー、介護職員全員である。年2回「高齢者虐待と身体拘束」をテーマに研修計画を作成し、介護福祉士会から講師を招いて研修も実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指針を作成し、職員全員に配布し会議の時に読合せを行ない周知徹底を図っている。R5.7/28に第1回目の虐待防止委員会を開催している。その後は、3ヶ月に1回委員会を開催している。年に2回虐待防止の研修を行ない2月に講師の先生をお招きし「虐待防止、身体拘束の廃止」について講義を受ける予定をしている。	虐待防止委員会を開催している。虐待防止の指針は毎月の職員会議で読み上げ、周知徹底を図っている。研修は、質疑応答の時間を設定する等して、職員の理解が深められるようにしている。また、施設長やケアマネジャーに職員が随時相談できる環境をつくり、多方面から虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について令和5年11月に介護福祉士会より講師の先生をお招きし、講義を受けている。講義後、職員に感想文を書いていただき周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を十分に説明し、疑問点にも丁寧にお答えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時折面会に来られた時や、何か用事があり電話連絡した時など意見や要望があれば聞き運営に反映されるように努めている。	運営推進会議には家族代表が出席している。家族の意見や要望は施設長やケアマネジャーが面会時に聞き取るなどして、運営に活かすようにしている。新型コロナウイルス等感染症予防対策を講じ、玄関での家族面会を再開した。	入居者家族から意見・要望を聴く場を設ける他にも、相談・苦情に対応する体制を整えて、サービスの質の向上を目指すことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議の話の中で意見等を聞き、業務関係やホームの運営等に反映させている。	職員会議やユニット会議の他、個人面談等で職員の意見を聞く機会を設けている。年2回の施設長との個別面談の他、社長と話す機会も設けている。入浴リフトの導入、感染症予防対策用のゴミ箱や大型テレビの購入等、職員の意見や要望を運営に反映している。また、希望休やシフト調整に対応し職員が働きやすいよう職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回社長と話す会を設け要望等を聞くようにしている。また、会議の時にもその都度聞ける環境を設けている。何かがあれば電話で情報を密にやり取りできるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足で外部研修になかなか行けず、介護福祉士会より講師の先生をお招きし、講義を受けるようにしている。また、毎月の会議の中で担当を決めテーマを作り内部研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	人員不足でなかなか同業者との交流ができず、人員に余裕ができれば同業者や研修会に参加していきたい	コロナ等感染症の拡大予防と人員不足のため、同業者との交流や研修会には参加できていない。今年、Web環境を整えオンラインでの交流や研修に参加できるようにした。近隣のデイサービスの事業所等と連絡や相談等、情報交流をしている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前に、情報を職員間で共有し、本人の様子を観察するようにし、不安な様子や困った様子が伺えた時には声掛けするように努めている。又その状況を職員間で共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に持ち、信頼関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーが本人や家族と密に話し合い必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然体で接しながら、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さんよりの依頼があるときには、外食や、本人とご家族さんでドライブに行かれています。また、ご家族さんが支払いなどで来所された時などに本人さんの普段の状況をお話するように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族さんや親戚の方が来所されたときには、ガラス越しではありますが会話をさせていただき関係の継続に努めています。	入居者の生活歴から馴染みの関係や場所等を把握し、支援できるよう努めている。新聞購読している入居者もいる。2ヶ月に1回馴染みの理・美容院の訪問があり利用している。家族と一緒に外食や墓参り、外出や外泊ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前と午後にお茶の時間などに雑談やレクリエーションを通してゲームや歌などを一緒にする事で交わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お亡くなりになった際には、職員にも知らせるようにしています。場合に応じて葬儀にも参列するようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望に添えるように努めています。帰りたいと話される時など電話で家族と会話していただくなどしています。また、面会などしていただき、今の家族の様子など話されています。	言葉で想いを伝えられない入居者には、表情や動作の変化を見逃さないようにして、「これがしたい」「ここに行きたい」等の把握に努めている。入居者の想いを受け止め、一人ひとりが居心地よい場所で自由に過ごせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や、前いた施設の情報を得、今まで暮らしていた様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングでの夜間の様子や夕方には1日の様子を夜勤者に申し送りまた、申し送りノートを通して、休みの職員にも伝えるように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの後に各棟に別れて、担当者が介護計画に沿ってモニタリングを行ない、その中で各職員から意見を聞き介護計画に反映している。	介護計画は、3ヶ月ごとに評価を行い、更新時には、ユニット職員全員で検討している。協力医の意見や家族の希望などを反映し、看護師からの助言も得て、介護計画を作成している。入居者一人ひとりの課題や目標の「継続」や「見直し」を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングの申し送りや申し送りノート、ヒヤリハット、事故報告など職員間で共有し、介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により訪問マッサージ（現在は利用している方はいない）や床屋さんにもホームまで来ていただき、散髪なども行っている。また、通院では、車椅子の方などは、近くの病院には送迎も行っている。急を要する受診には、職員が同行し受診をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の地域の展示会（館矢間趣味の会）に皆さんで作った作品を出品している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は丸森病院と谷津歯科医院があり、ご本人ご家族の希望により今までかかっていた医療機関に継続して診ていただいている方もいます。（山本医院）	入居者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医として受診している。通院する際は、家族の付き添いを基本としているが、緊急時や状態によっては職員が同行している。車いすの入居者に対しては送迎支援を行っている。通院の際に家族には、入居者の状態や経過等を書面にして渡し、医師へ情報提供している。診察結果はケア記録に記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来た時には、利用者様の日々の状況を説明し、状況に応じてかかりつけ医と連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関や家族との連絡を密にし、状態の把握に努め、良くなり次第早期に退院できるように努めています。入院時には、当ホームよりサマリーを退院時には、病院よりサマリーを頂き情報交換に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行なっておらず、終末時の対応の経験はありませんが、ミーティングの社内研修において看護師より、年1回のターミナルケアに関する研修を受けています。	土地柄、24時間対応できる医療体制が整わず看取り対応が困難なため、実施していない。重症化や看取り対応について、契約時に入居者と家族にホームでできることを説明している。入居者の状況が重度化した場合には、移設の相談を行って支援している。非常勤看護師が講師となり、職員は年1回、重度化や看取りの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署に依頼し、毎年救急救命講習を行っていますが、コロナ禍の中で今年度は行っていません。コロナも緩和されてきたので、地元の消防署に依頼し救急救命講習を行いたいと思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	R5.3/12に・消火訓練・通報訓練・避難訓練を実施しています。R5.7/30には水害想定による避難訓練を地域の防災避難訓練と同時に参加しています。	火災、風水害、地震対応マニュアルとBCPを作成し、火災（夜間想定）、水害想定避難訓練を年2回実施している。常に意識できるようハザードマップや避難経路をホームの廊下に掲示し、職員が行動できるよう努めるとともに、行政との連携体制を整えている。感染症予防対策や対応について委員会を設けて話し合う他、保健所の指示や指導も受けている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	R5.11/24に介護福祉士会より講師の先生をお招きし「認知症の人の権利擁護について」をテーマに全員で講義を受け学んでいます。また、利用者さんのプライバシーを損ねないように話しかけにも気を付けています。	職員が居室に入る場合は、必ずノックで確認している。排泄時には各居室のトイレを利用する場合でも、羞恥心に配慮して対応している。基本呼び方は、名字に「さん」付けで呼んでいるが、同じ名字の場合には名前でも呼ぶこともある。接遇やプライバシー保護について正しく理解できるよう、介護福祉士会より講師を招き研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの希望等を表すことのできない方には、普段の様子を把握し、表情や仕草から判断し、その方に合わせた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調やペースに合わせて職員間で情報を共有しあい介護を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の割合で近所の床屋さんに散髪を依頼しホームまで来て頂いています。また、個人で家族様対応でいかれることもあります。誕生日の時など担当職員が衣類等をプレゼントしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆、お彼岸、年始など職員がその時期に合った食事を提供しています。また、出来る方には、お盆拭きやお皿拭きなどのお手伝いをしている。朝食は、夜勤者が、朝大変なことより冷凍食品を使うようにしています。	職員がメニューを作成し、3食とも手作りしている。行事食や近隣住民から差し入れされた旬の野菜等を取り入れた献立、節分には表面に鬼の顔を型取りした「ちらし寿司」を提供する等、職員は工夫し、入居者が楽しめるよう取り組んでいる。誕生日は、プレゼントを贈りケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や嚥下状態を把握し、刻みやミキサー食にし食べやすいようにして提供しています。水分は水分制限のある方はその都度測りながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできるところはして頂き、様子を見ながらお手伝いをするようにしています。歯磨き後は、洗口液で口腔内を殺菌するようにしています。義歯は水洗い後洗浄剤を使用し、清潔に保つようにしています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を基にその人その人のパターンを把握し、出来るだけトイレの排出ができるように支援しています。意思表示のできない方はその人その人の表情や仕草からトイレに誘導しています。	入居者の排泄パターンを記録し、タイミングに合わせて誘導している。入居者の状態に合わせて、各居室や共有のトイレを使用し、布パンツ、リハビリパンツや紙おむつを使い分ける等、トイレで排泄ができるように努めている。乳製品や水分量に配慮し、軽運動を行う等、便秘予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を基に便秘しているかを把握し水分補給や乳製品を提供するようにしています。また、処方されている便秘薬を調整し、便秘の解消に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の設定はしていますが、随時本人の体調や希望に応じて対応しています。また、前もって今日入浴があることを伝え心の準備をいただいています。拒否があるときには、翌日に延期しています。	原則、週2~3回、午後に入浴対応をしている。入居者の希望や状況により、シャワー浴や清拭を行っている。入浴準備を一緒に行う等、入浴意欲を高める工夫をしている。また、夜間に心地よく入眠できるように浴室の温・湿度や湯の温度調整を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状態に合わせた対応を行っています。不眠続くような場合には、主治医と連携を図り処方薬の調整をいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方して頂いた薬は薬情を基に薬の効能を理解するようにしています。薬をセットするときには、薬情を確認しながらセットするようにしています。服薬をする時には職員が本人の者であることを確認し服薬をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状態や希望に合わせて、厨房でお盆拭きや皿拭きまた、洗濯物たたみなどをしていただいています。季節によってはお花見や紅葉ドライブなど外出し気分の転換を図っています。レクリエーションでは、昔懐かしい歌などを歌うようにしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を踏まえ、日光浴や散歩、時期によってお花見、紅葉ドライブなどを行っています。また、受診の際、家族様と一緒に昼食を食べてきたりされています。家族様によっては、休みの時にドライブに連れていかれています。	車いすのまま乗車できるワゴン車を使用し、みんなで一緒にドライブしながら花見や紅葉など季節を楽しめるよう取り組んでいる。月単位で外出計画をたて、天気や職員体制を確認しながら実施している。近隣のリンゴ園へ出かける等、自然と触れ合う機会を設けたり、日常的には中庭や玄関前に椅子を出して外気浴する等の気分転換を図っている。自宅への外泊や家族と一緒に外出に行く人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、家族と相談しながら応じています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりその都度対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、その時期に合った壁飾りや作品を職員が月ごとに担当し、利用者さんの協力をもって季節感のある作品を作り飾っています。	太い梁のあるリビングは、天井が高く開放感があり明るい造りになっている。テレビは2台あり、大きなテレビの上には目線に合わせて時計があり見やすく、大きな日めくりカレンダーや季節を感じる手作りの作品も掲示している。居室に向かう途中のフリースペースには、椅子とテーブルがあり、ゆっくりとくつろいでいる入居者もいる。温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にはベンチ、談話室にはテーブルと椅子、畳コーナーにはテーブルを置きお茶や談話に使えるようにしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居際に使い慣れた食器や小物、写真やぬいぐるみ、毛布などを持参されています。また、入居後も状況に応じて季節ごとの衣類やタオルケットなど家族様と相談しながら対応しています。	各居室にはトイレ、洗面台、エアコン、ベッド、収納タンス、カーテンが設置してある。また、ウッドデッキも全室にあり、出窓から日差しが入り明るい。それぞれ馴染みの家具や仏壇などを持ち込み、写真を飾るなど自由な部屋作りをしている。入居者の状態に合わせて動線に配慮し、ベッドや家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーになっており、ホールや廊下には両サイドに手すりが設置されているが、職員それぞれが安全に十分配慮しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492300017	事業の開始年月日	2011年4月12日	
		指定年月日		
法人名	株式会社岩沼インテリアサービス			
事業所名	認知症高齢者グループホームひまわりの郷 ユニット名：B棟			
所在地	(〒 981-2102) 宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山字直洲131-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年1月17日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあります通り「利用者本位」「地域密着」「異体同心」を基に利用者さんや家族の声を出来るだけ聞くようにしています。また、地域である奉仕作業や避難訓練などにも参加し、それにより、地域の皆さんと緊密な関係を築き、気軽に声を掛けて頂けるホーム造りを心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月16日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

事業所理念：「異体同心」「地域密着」「利用者本位」
理念をより具体的に実現するため、ユニットごとの目標を定めている。
A棟：心と体の健康で笑顔と真心の介護
B棟：敬う心で明るい笑顔、優しい介護

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

運営する母体法人は、「株式会社岩沼インテリアサービス」である。当初、地域貢献として1ユニットのグループホームを開所し、現在は、独立した建物の2ユニットで運営をしている。ホームは国道113号線に近い静かな住宅街と田園地帯の中にあり、各ユニットは敷地内で向かい合わせに建てられている。リビングや全居室にはウッドデッキが設けられ、また、建物内部には木材が多く使われ、古民家造りのように玄関やリビングの高い天井には、太い木の梁がある。天井にはシーリングファンが備え付けられており、室内の温度が調整しやすい。

【事業所の優れている点・工夫点】

理念のもとに職員は運営法人との連携を図りながら、入居者の日々の変化をこまめにチェックし介護に活かすことで、「利用者本位」の理念に沿ったケアになっているかなど、意識して取り組んでいる。行政の福祉課職員や関連部署と連携・協力体制を構築し、町内会主催の総合防災訓練、缶拾いや除草作業に参加する等、地域交流や地域貢献に取り組んでいる。介護福祉士会から講師を招き研修を実施する等、職員が専門的知識を正しく習得できるようにしている。また、入浴リフトの導入や感染症予防対策用に専用のゴミ箱、大型テレビの購入、職員の希望休やシフト調整を行う等、職員からの意見・要望を積極的に受け入れて、サービスの質の向上に努めている。季節を感じられるよう外出の機会を設け、旬の食材を取り入れた献立による行事食の提供など、入居者が楽しく過ごせる工夫を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	認知症高齢者グループホームひまわりの郷
ユニット名	B棟

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホームひまわりの郷）「ユニット名：B棟」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」という3つの理念と、A棟「心と体の健康で笑顔と真心の介護」B棟「敬う心で明るい笑顔、優しい介護」という各ユニットごとの目標を決めて実施している。	ホームの理念は額に入れ、確認しやすいようリビングに掲示している。各ユニットごとに職員の介護姿勢を示す目標が作られ、入居者との関わりに活かしている。年1回、事業計画と共に全職員で確認し検討する機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「班」に入れていただいております。回覧板を通して、地域の情報を受けています。また、奉仕作業や避難訓練にも参加し交流に努めています。	町内会に加入し、町内会主催の総合防災訓練、缶拾いや除草作業に職員とともに入居者も参加している。回覧板が届いたときは入居者も確認したり、地域との繋がりが続けられるよう支援している。また、近隣住民から野菜の差し入れなどもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護福祉士会より先生をお招きし、講義を受け、学んだことや実践で積み上げて来たことなど問い合わせや要請があれば活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行っており、役場や委員の方に運営状況等について説明し、質問等にも丁寧に答えている。また、役場や地域の情報も頂いている。	運営推進会議は家族代表、区長、民生委員、地域包括職員、職員がメンバーとなり、年6回開催している。新型コロナウイルス等感染症予防対策が必要な時には、書面で資料を配布している。入居者状況や改善点など、ホームの運営情報報告を行い、メンバーからは地域の情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に役場包括支援班に参加していただいております。また、介護保険班より、何か情報があった時、連絡をいただいております。こちらからも何かあった時情報を提供している。	行政職員が外部評価に同席している。制度の利用や補助金等の相談、改善報告書の提出を行う等、行政の福祉課と密に連絡がとれている。また、必要時には、福祉課以外とも連携する等、協力体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を作成しており、職員全員に配布し、会議の時に読合せをし周知徹底を図っている。また3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。また、2月のミーティング時に介護福祉士会より講師の先生をお招きし「虐待防止、身体拘束の廃止」についての講義を受ける予定をしている。	「身体拘束その他の行動制限防止に係る指針」を昨年6月に策定した。3ヶ月に1回、「身体拘束適正化委員会」を開催している。メンバーは、施設長、非常勤の看護師、ケアマネジャー、介護職員全員である。年2回「高齢者虐待と身体拘束」をテーマに研修計画を作成し、介護福祉士会から講師を招いて研修も実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指針を作成し、職員全員に配布し会議の時に読合せを行ない周知徹底を図っている。R5.7/28に第1回目の虐待防止委員会を開催している。その後は、3ヶ月に1回委員会を開催している。年に2回虐待防止の研修を行ない2月に講師の先生をお招きし「虐待防止、身体拘束の廃止」について講義を受ける予定をしている。	虐待防止委員会を開催している。虐待防止の指針は毎月の職員会議で読み上げ、周知徹底を図っている。研修は、質疑応答の時間を設定する等して、職員の理解が深められるようにしている。また、施設長やケアマネジャーに職員が随時相談できる環境をつくり、多方面から虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について令和5年11月に介護福祉士会より講師の先生をお招きし、講義を受けている。講義後、職員に感想文を書いていただき周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を十分に説明し、疑問点にも丁寧にお答えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時折面会に来られた時や、何か用事があり電話連絡した時など意見や要望があれば聞き運営に反映されるように努めている。	運営推進会議には家族代表が出席している。家族の意見や要望は施設長やケアマネジャーが面会時に聞き取るなどして、運営に活かすようにしている。新型コロナウイルス等感染症予防対策を講じ、玄関での家族面会を再開した。	入居者家族から意見・要望を聴く場を設ける他にも、相談・苦情に対応する体制を整えて、サービスの質の向上を目指すことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議の話の中で意見等を聞き、業務関係やホームの運営等に反映させている。	職員会議やユニット会議の他、個人面談等で職員の意見を聞く機会を設けている。年2回の施設長との個別面談の他、社長と話す機会も設けている。入浴リフトの導入、感染症予防対策用のゴミ箱や大型テレビの購入等、職員の意見や要望を運営に反映している。また、希望休やシフト調整に対応し職員が働きやすいよう職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回社長と話す会を設け要望等を聞くようにしている。また、会議の時にもその都度聞ける環境を設けている。何かがあれば電話で情報を密にやり取りできるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足で外部研修になかなか行けず、介護福祉士会より講師の先生をお招きし、講義を受けるようにしている。また、毎月の会議の中で担当を決めテーマを作り内部研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	人員不足でなかなか同業者との交流ができず、人員に余裕ができれば同業者や研修会に参加していきたい	コロナ等感染症の拡大予防と人員不足のため、同業者との交流や研修会には参加できていない。今年、Web環境を整えオンラインでの交流や研修に参加できるようにした。近隣のデイサービスの事業所等と連絡や相談等、情報交流をしている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前に、情報を職員間で共有し、本人の様子を観察するようにし、不安な様子や困った様子が伺えた時には声掛けするように努めている。又その状況を職員間で共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に持ち、信頼関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーが本人や家族と密に話し合い必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然体で接しながら、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さんよりの依頼があるときには、外食や、本人とご家族さんでドライブに行かれています。また、ご家族さんが支払いなどで来所された時などに本人さんの普段の状況をお話するように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族さんや親戚の方が来所されたときには、ガラス越しではありますが会話をさせていただき関係の継続に努めています。	入居者の生活歴から馴染みの関係や場所等を把握し、支援できるよう努めている。新聞購読している入居者もいる。2ヶ月に1回馴染みの理・美容院の訪問があり利用している。家族と一緒に外食や墓参り、外出や外泊ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前と午後にお茶の時間などに雑談やレクリエーションを通してゲームや歌などを一緒にする事で交わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お亡くなりになった際には、職員にも知らせるようにしています。場合に応じて葬儀にも参列するようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望に添えるように努めています。帰りたいと話される時など電話で家族と会話していただくなどしています。また、面会などしていただき、今の家族の様子など話されています。	言葉で想いを伝えられない入居者には、表情や動作の変化を見逃さないようにして、「これがしたい」「ここに行きたい」等の把握に努めている。入居者の想いを受け止め、一人ひとりが居心地よい場所で自由に過ごせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や、前いた施設の情報を得、今まで暮らしていた様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングでの夜間の様子や夕方には1日の様子を夜勤者に申し送りまた、申し送りノートを通して、休みの職員にも伝えるように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの後に各棟に別れて、担当者が介護計画に沿ってモニタリングを行ない、その中で各職員から意見を聞き介護計画に反映している。	介護計画は、3ヶ月ごとに評価を行い、更新時には、ユニット職員全員で検討している。協力医の意見や家族の希望などを反映し、看護師からの助言も得て、介護計画を作成している。入居者一人ひとりの課題や目標の「継続」や「見直し」を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングの申し送りや申し送りノート、ヒヤリハット、事故報告など職員間で共有し、介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により訪問マッサージ（現在は利用している方はいない）や床屋さんにもホームまで来ていただき、散髪なども行っている。また、通院では、車椅子の方などは、近くの病院には送迎も行っている。急を要する受診には、職員が同行し受診をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の地域の展示会（館矢間趣味の会）に皆さんで作った作品を出品している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は丸森病院と谷津歯科医院があり、ご本人ご家族の希望により今までかかっていた医療機関に継続して診ていただいている方もいます。（山本医院）	入居者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医として受診している。通院する際は、家族の付き添いを基本としているが、緊急時や状態によっては職員が同行している。車いすの入居者に対しては送迎支援を行っている。通院の際に家族には、入居者の状態や経過等を書面にして渡し、医師へ情報提供している。診察結果はケア記録に記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来た時には、利用者様の日々の状況を説明し、状況に応じてかかりつけ医と連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関や家族との連絡を密にし、状態の把握に努め、良くなり次第早期に退院できるように努めています。入院時には、当ホームよりサマリーを退院時には、病院よりサマリーを頂き情報交換に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行なっておらず、終末時の対応の経験はありませんが、ミーティングの社内研修において看護師より、年1回のターミナルケアに関しての研修を受けています。	土地柄、24時間対応できる医療体制が整わず看取り対応が困難なため、実施していない。重症化や看取り対応について、契約時に入居者と家族にホームでできることを説明している。入居者の状況が重度化した場合には、移設の相談を行って支援している。非常勤看護師が講師となり、職員は年1回、重度化や看取りの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署に依頼し、毎年救急救命講習を行っていますが、コロナ禍の中で今年度は行っていません。コロナも緩和されてきたので、地元の消防署に依頼し救急救命講習を行いたいと思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	R5.3/12に・消火訓練・通報訓練・避難訓練を実施しています。R5.7/30には水害想定による避難訓練を地域の防災避難訓練と同時に参加しています。	火災、風水害、地震対応マニュアルとBCPを作成し、火災（夜間想定）、水害想定避難訓練を年2回実施している。常に意識できるようにハザードマップや避難経路をホームの廊下に掲示し、職員が行動できるよう努めるとともに、行政との連携体制を整えている。感染症予防対策や対応について委員会を設けて話し合う他、保健所の指示や指導も受けている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	R5.11/24に介護福祉士会より講師の先生をお招きし「認知症の人の権利擁護について」をテーマに全員で講義を受け学んでいます。また、利用者さんのプライバシーを損ねないように話しかけにも気を付けています。	職員が居室に入る場合は、必ずノックで確認している。排泄時には各居室のトイレを利用する場合でも、羞恥心に配慮して対応している。基本呼び方は、名字に「さん」付けで呼んでいるが、同じ名字の場合には名前で呼ぶこともある。接遇やプライバシー保護について正しく理解できるよう、介護福祉士会より講師を招き研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの希望等を表すことのできない方には、普段の様子を把握し、表情や仕草から判断し、その方に合わせた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調やペースに合わせて職員間で情報を共有しあい介護を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の割合で近所の床屋さんに散髪を依頼しホームまで来て頂いています。また、個人で家族様対応でいかれることもあります。誕生日の時など担当職員が衣類等をプレゼントしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆、お彼岸、年始など職員がその時期に合った食事を提供しています。また、出来る方には、お盆拭きやお皿拭きなどのお手伝いをしている。朝食は、夜勤者が、朝大変なことより冷凍食品を使うようにしています。	職員がメニューを作成し、3食とも手作りしている。行事食や近隣住民から差し入れされた旬の野菜等を取り入れた献立、節分には表面に鬼の顔を型取りした「ちらし寿司」を提供する等、職員は工夫し、入居者が楽しめるよう取り組んでいる。誕生日は、プレゼントを贈りケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や嚥下状態を把握し、刻みやミキサー食にし食べやすいようにして提供しています。水分は水分制限のある方はその都度測りながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできるところはして頂き、様子を見ながらお手伝いをするようにしています。歯磨き後は、洗口液で口腔内を殺菌するようにしています。義歯は水洗い後洗浄剤を使用し、清潔に保つようにしています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を基にその人その人のパターンを把握し、出来るだけトイレの排出ができるように支援しています。意思表示の出来ない方はその人その人の表情や仕草からトイレに誘導しています。	入居者の排泄パターンを記録し、タイミングに合わせて誘導している。入居者の状態に合わせて、各居室や共有のトイレを使用し、布パンツ、リハビリパンツや紙おむつを使い分ける等、トイレで排泄ができるように努めている。乳製品や水分量に配慮し、軽運動を行う等、便秘予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を基に便秘しているかを把握し水分補給や乳製品を提供するようにしています。また、処方されている便秘薬を調整し、便秘の解消に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の設定はしていますが、随時本人の体調や希望に応じて対応しています。また、前もって今日入浴があることを伝え心の準備をしていただいています。拒否があるときには、翌日に延期しています。	原則、週2~3回、午後に入浴対応をしている。入居者の希望や状況により、シャワー浴や清拭を行っている。入浴準備を一緒に行う等、入浴意欲を高める工夫をしている。また、夜間に心地よく入眠できるように浴室の温・湿度や湯の温度調整を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状態に合わせた対応を行っています。不眠続くような場合には、主治医と連携を図り処方薬の調整をいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方して頂いた薬は薬情を基に薬の効能を理解するようにしています。薬をセットするときには、薬情を確認しながらセットするようにしています。服薬をする時には職員が本人の者であることを確認し服薬をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状態や希望に合わせて、厨房でお盆拭きや皿拭きまた、洗濯物たたみなどをしていただいています。季節によってはお花見や紅葉ドライブなど外出し気分の転換を図っています。レクリエーションでは、昔懐かしい歌などを歌うようにしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を踏まえ、日光浴や散歩、時期によってお花見、紅葉ドライブなどを行なっています。また、受診の際、家族様と一緒に昼食を食べてきたりされています。家族様によっては、休みの時にドライブに連れていかれています。	車いすのまま乗車できるワゴン車を使用し、みんなで一緒にドライブしながら花見や紅葉など季節を楽しめるよう取り組んでいる。月単位で外出計画をたて、天気や職員体制を確認しながら実施している。近隣のリンゴ園へ出かける等、自然と触れ合う機会を設けたり、日常的には中庭や玄関前に椅子を出して外気浴する等の気分転換を図っている。自宅への外泊や家族と一緒に外出に行く人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、家族と相談しながら応じています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりその都度対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、その時期に合った壁飾りや作品を職員が月ごとに担当し、利用者さんの協力をもって季節感のある作品を作り飾っています。	太い梁のあるリビングは、天井が高く開放感があり明るい造りになっている。テレビは2台あり、大きなテレビの上には目線に合わせて時計があり見やすく、大きな日めくりカレンダーや季節を感じる手作りの作品も掲示している。居室に向かう途中のフリースペースには、椅子とテーブルがあり、ゆっくりとくつろいでいる入居者もいる。温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にはベンチ、談話室にはテーブルと椅子、畳コーナーにはテーブルを置きお茶や談話に使えるようにしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居際に使い慣れた食器や小物、写真やぬいぐるみ、毛布などを持参されています。また、入居後も状況に応じて季節ごとの衣類やタオルケットなど家族様と相談しながら対応しています。	各居室にはトイレ、洗面台、エアコン、ベッド、収納タンス、カーテンが設置してある。また、ウッドデッキも全室にあり、出窓から日差しが入り明るい。それぞれ馴染みの家具や仏壇などを持ち込み、写真を飾るなど自由な部屋作りをしている。入居者の状態に合わせ動線に配慮し、ベッドや家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーになっており、ホールや廊下には両サイドに手すりが設置されているが、職員それぞれが安全に十分配慮しています。		